資料２

前橋市少子化対策等に関する市民アンケート調査

結果報告資料

令和７年３月

前橋市

1　アンケート実施結果

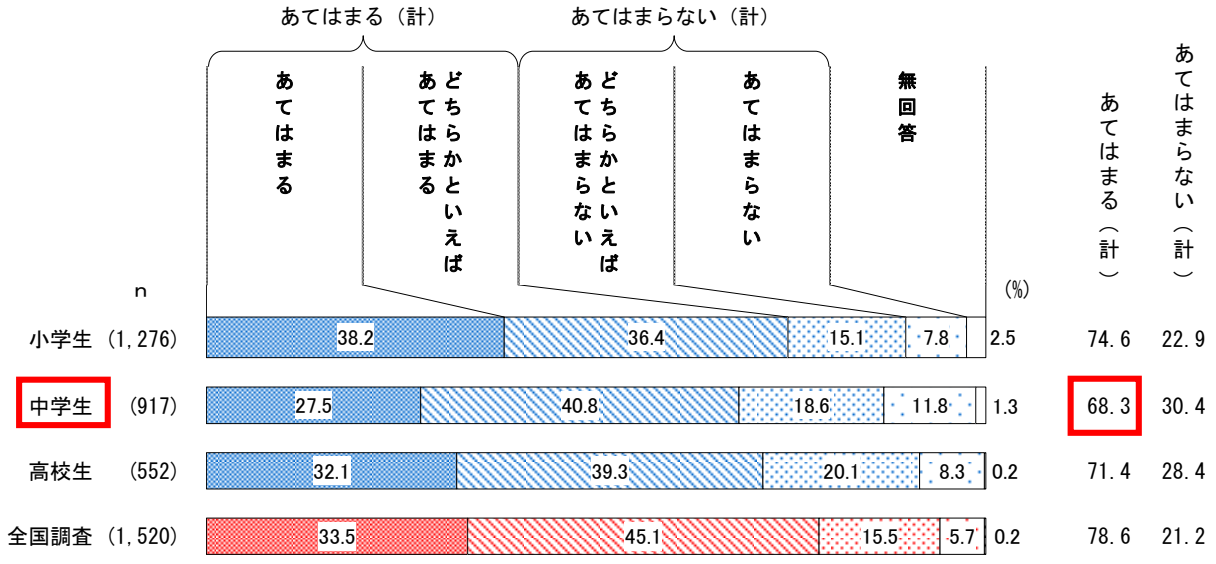
個別調査名		対象者	対象数	調査方法			実施期間	主な調査内容	回答数	回答率
				抽出	送付	回答				
前橋市少子化対策等に関する市民アンケート調査	(1)こども・若者意識調査	① 小学生（5，6年生）	4,831人	全員（市立小学校）	すぐーる	ウェブ	令和6年10月31日～11月15日	・自己認識 ・居場所 ・人との関わり ・生活や活動 ・将来	1,276人	26.4%
		② 中学生（1，3年生）	4,878人	全員（市立中学校）	すぐーる	ウェブ			917人	18.8%
		③ 高校生（15～18歳）	1,500人	無作為抽出	郵送	ウェブ	令和6年11月 6日～11月29日		563人	37.5%
		④ 独身者（20～39歳）	1,500人	無作為抽出	郵送	ウェブ	令和6年11月13日～12月6日	・結婚 ・妊娠、出産 ・子育て ・仕事と子育て ・少子化対策 ・定住性	320人	21.3%
		⑤ 既婚者（20～39歳）	1,500人	無作為抽出	郵送	ウェブ			569人	37.9%
		⑥ 子の保護者（20～49歳）	1,500人	無作為抽出	郵送	ウェブ			697人	46.5%
	(2)こどもの生活状況調査	⑦ 中学２年生	2,496人	全員（市立中学校）	学校から配付	ウェブ	令和6年10月31日～11月15日	・学習の状況、進学 ・生活や活動 ・経済的状況 ・心理的状況 ・支援の利用	1,088人	43.6%
		⑧ 保護者（⑦の保護者）	2,496人	全員（市立中学校）	学校から配付	ウェブ			1,314人	52.6%
	(3)事業者実態・意識調査	⑨ 事業者	1,500事業所	無作為抽出	郵送	ウェブ	令和6年11月 6日～12月 6日	・育児休業制度 ・職場環境の整備	562事業所	37.5%

2　こども・若者意識調査 （小学生、中学生、高校生）結果概要

■　自己肯定感

自己肯定感は全国調査と比較して全体的に低く、特に中学生で低い傾向。

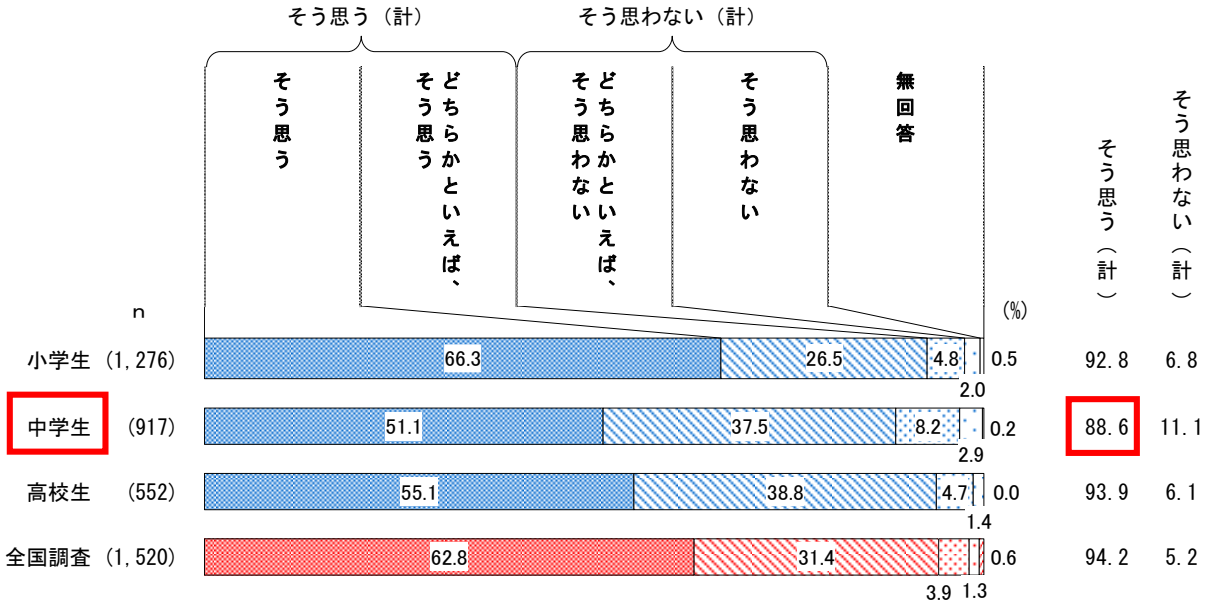
Q：あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。【今の自分が好きだ】



■　幸福感

幸福感も中学生が他の学校の段階に比べて低く、全国調査と比較しても低い。

Q：あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。



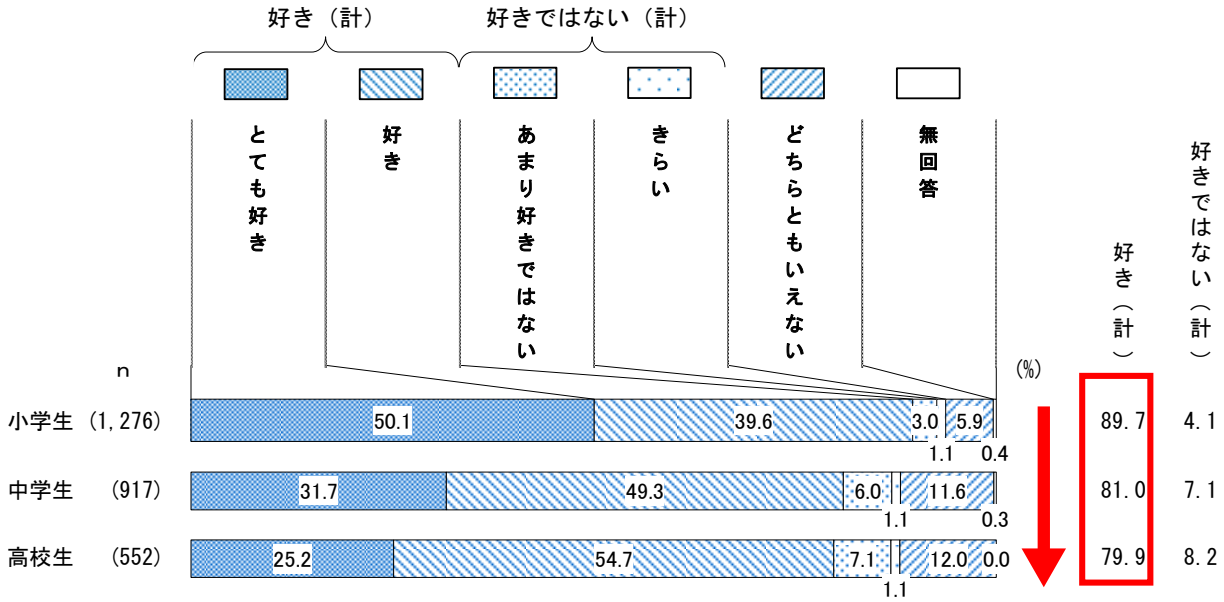
※全国調査…内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和４年度）／10歳～14歳対象調査

2　こども・若者意識調査（小学生、中学生、高校生）結果概要

■　居住環境

小学生の約９割が前橋市を好きと回答したが、学校の段階が上がるにつれてその割合はやや減少する。

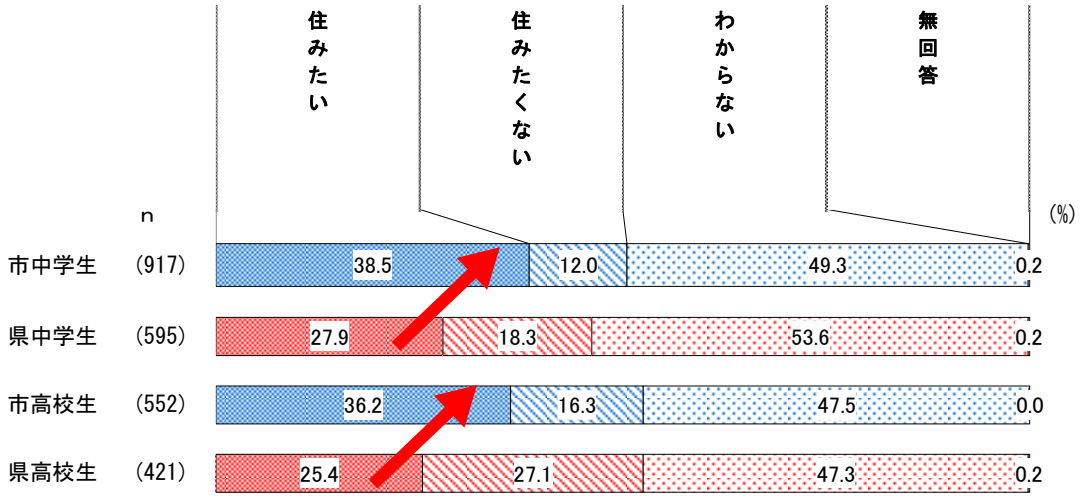
Q：あなたは、今住んでいるところ（前橋市）は好きですか。



■　居住意向

居住意向は高く、中学生と高校生は県調査を上回り、特に中学生の男性と高校生の女性で高い傾向。

Q：あなたは、今住んでいるところ（前橋市）に大人になってからも住みたいと思いますか。



【中学生】男性：41.9%　女性：36.6%

【高校生】男性：33.8%　女性：38.0%

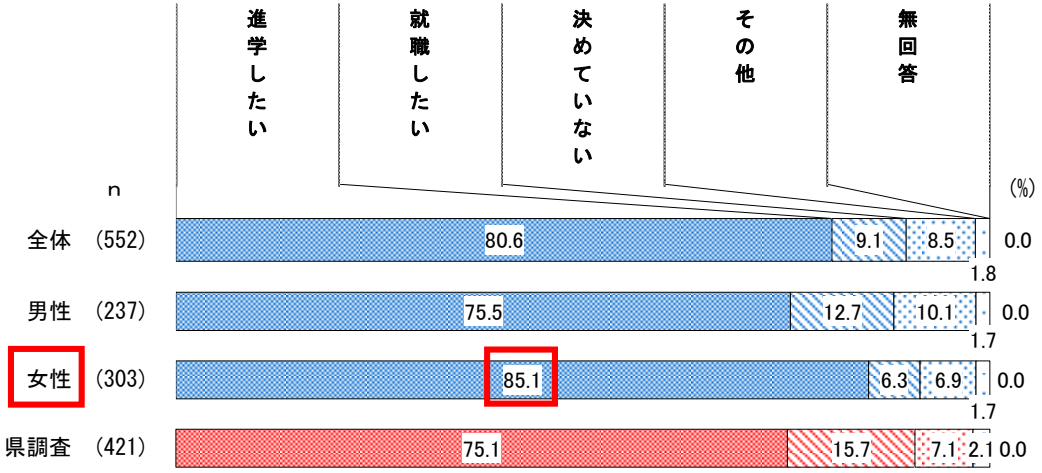
※県調査…群馬県 第８回ぐんま青少年基本調査（令和５年度）

2　こども・若者意識調査（小学生、中学生、高校生）結果概要

■　進路の希望

高校生の進路は、女性で進学の意向が高く、進学先や就職先としては東京圏を希望する人が多い。

Q：あなたは、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。



※県調査…群馬県 第８回ぐんま青少年基本調査（令和５年度）

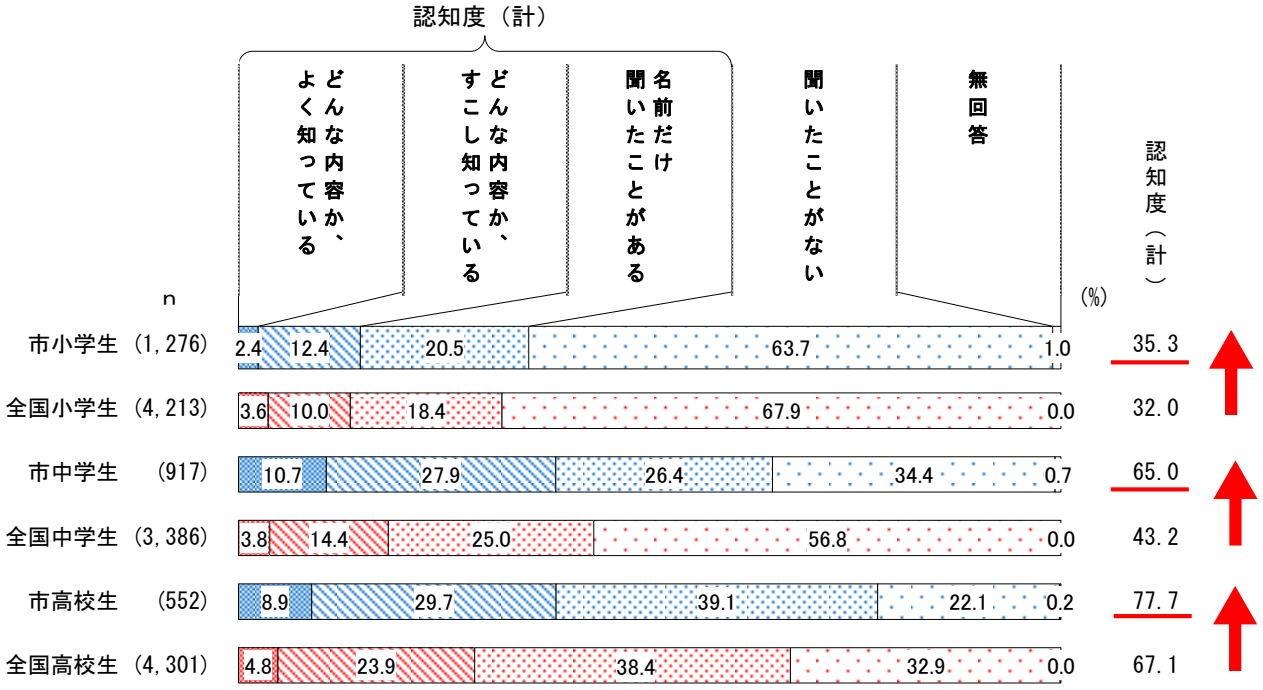
Q：あなたが高校卒業後、進学や就職などを考えている地域はどこですか。

第１位：28.8%　東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）
第２位：25.0%　群馬県内（前橋市以外）
第３位：16.7%　前橋市内　（上位３項目抜粋）

■　子どもの権利条約

子どもの権利条約の認知度は学校の段階が上がるにつれて高くなり、すべての学校段階で全国調査を上回る。特に中学生は全国調査を大きく上回り、６割台半ばが認知している。

Q：あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか。



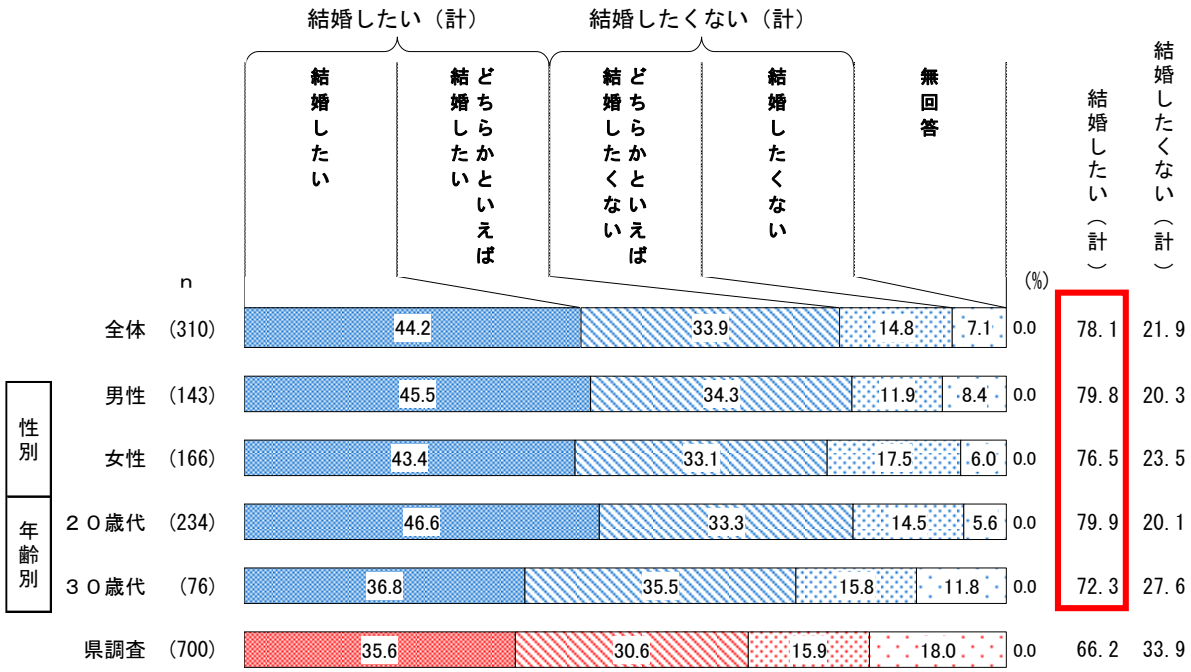
※全国調査…子ども家庭庁 児童の権利に関する条約の認知度等調査（令和５年度）

3　こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）結果概要

■　結婚意向

独身者の約８割が結婚を希望しており、県調査を大きく上回る。

Q：あなたは将来結婚したいと思いますか。



※県調査…令和５年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

■　結婚しない理由

結婚していない理由は主に「出会いがない」「結婚したいと思う相手がいない」「収入面の不安」が挙げられ、男性と女性で理由に差異が生じている。

Q：現在、結婚していない理由は何ですか。（上位５項目抜粋）

単位：%	調査数（n）	出会いがないから	結婚したいと思う相手がいないから	収入面に不安があるなどの経済的な理由から	今は自分の時間を優先したいから	学生のため
全体	242	45.5	38.0	32.6	21.5	21.5
男性	114	49.1	35.1	45.6	18.4	16.7
女性	127	41.7	40.2	21.3	24.4	26.0

3　こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）結果概要

■　子どもの人数

理想の子どもの人数は、「２人」が最も多い。子育て中の保護者では「３人」を理想とする割合も高い。

Q：あなたは将来子どもを何人授かりたいですか。／あなた方ご夫婦にとって、理想的な子どもの人数は何人ですか。（「１人」～「４人以上」を抜粋）

単位：％	調査数（n）	1人	2人	3人	4人以上
独身者	164	7.9	60.4	11.6	1.2
既婚者	509	10.4	55.4	11.2	0.2
子育て中の保護者	697	4.7	47.2	42.8	4.0

子育て中の保護者の最終的な予定人数は「３人」が大きく減る。理想の子どもの人数より少ない理由は「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が特に高く、次いで「高年齢での出産への不安」が挙げられる。

Q：あなたの子どもの人数について、最終的に何人を予定していますか。（「１人」～「４人以上」を抜粋）

単位：％	調査数（n）	1人	2人	3人	4人以上
子育て中の保護者	697	19.2	50.2	20.1	2.0

Q：「理想の子どもの人数」より「予定の子どもの人数」が少ない理由は何ですか。（上位５項目抜粋）

単位：％	調査数（n）	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高年齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事（勤めや家業）に差しえるから	授かりたいけれども授かれないから
子育て中の保護者	245	71.0	36.7	23.3	18.4	16.7

3　こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）結果概要

■　少子化の要因

少子化の要因について、独身者、既婚者、子育て中の保護者の約６割から７割が「若者や子育て世代の経済的不安定さ」を挙げ、「子育てや教育にかかる費用の増大」が続く。これらの課題意識は県調査よりも高い傾向にある。

Q：現在、日本は出生率が低下し、子どもの数が少なくなっていく「少子化」が進んでいます。少子化の要因はどのようなことだと思いますか。（上位５項目抜粋）

単位：%	調査数（n）	若者や子育て世代の経済的な不安定さ	子育てや教育にかかる費用負担の増大	結婚や子育てに対する価値観の多様化	仕事と子育てに対する価値観の多様化	出会いの機会の減少
市独身者	310	67.1	36.1	27.4	20.3	19.7
県独身者	700	57.1	29.4	23.0	22.4	17.6
市既婚者	509	74.5	39.7	21.8	35.2	7.3
市子育て中の保護者	697	63.1	45.2	26.7	31.4	6.6

※県調査…令和５年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

■　少子化対策の重要度と充実度

少子化対策ではどの層も「家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」を最も重要視する。

重要だが充実していない施策としては「家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」「若い世代の所得向上に向けた取組」「出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」などが挙げられる。

Q：次の各施策について、少子化対策としての重要度/充実度はどの程度だと思いますか。（各上位３項目抜粋）

■独身者	重要度	充実度
家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.51	1.34
若い世代の所得向上に向けた取組	3.50	1.21
保育サービスの充実	3.48	1.70

■既婚者	重要度	充実度
家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.74	0.98
保育サービスの充実	3.71	1.48
不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.62	1.19

■子育て中の保護者	重要度	充実度
家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.60	1.05
保育サービスの充実	3.54	2.01
出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.39	1.17

4　こどもの生活状況調査 （中学２年生、中学２年生保護者） 結果概要

■　学習状況

中学２年生の学校の授業以外の勉強方法では、収入水準が低い世帯やひとり親世帯では「塾で勉強する」「家の人に教えてもらう」割合が低くなり、自己学習に頼る傾向が強い。

Q：あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

単位：%		調査数（n）	自分で勉強する	塾で勉強する	家の人に教えてもらう	友達と勉強する	地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	家庭教師に教えてもらう	学校の補習を受ける	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答
全体		952	84.9	45.2	31.6	25.8	2.7	1.8	0.5	4.0	4.0	0.1
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	85.1	54.3	35.7	26.2	2.1	1.3	0.9	3.8	2.3	0.0
	中央値の２分の１以上中央値未満	347	85.3	36.3	29.4	27.1	3.2	2.3	0.0	4.0	5.5	0.3
	中央値の２分の１未満	94	80.9	33.0	22.3	19.1	4.3	2.1	1.1	4.3	6.4	0.0
世帯別	ふたり親世帯	844	86.0	46.2	32.7	26.2	2.8	1.7	0.6	4.0	3.8	0.1
	ひとり親世帯	100	78.0	38.0	21.0	23.0	2.0	3.0	0.0	4.0	4.0	0.0

■　進学希望・展望

進学希望は、子ども、保護者ともに大学以上を希望する割合が高いが、収入水準が低い世帯やひとり親世帯ではその割合は低くなる。

Q：あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。/
お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。（一部抜粋）

■中学２年生

単位：%		調査数（n）	大学まで	大学院まで
全体		952	48.2	2.5
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	56.4	2.6
	中央値の２分の１以上中央値未満	347	42.9	2.0
	中央値の２分の１未満	94	30.9	3.2
世帯別	ふたり親世帯	844	49.4	2.7
	ひとり親世帯	100	39.0	1.0

■中学２年生保護者

単位：%		調査数（n）	大学まで	大学院まで
全体		952	52.1	2.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	62.6	3.0
	中央値の２分の１以上中央値未満	347	42.7	1.4
	中央値の２分の１未満	94	34.0	0.0
世帯別	ふたり親世帯	844	54.4	2.0
	ひとり親世帯	100	33.0	2.0

【県調査】「大学またはそれ以上」：39.9%

※県調査…令和５年度群馬県子どもの生活実態調査

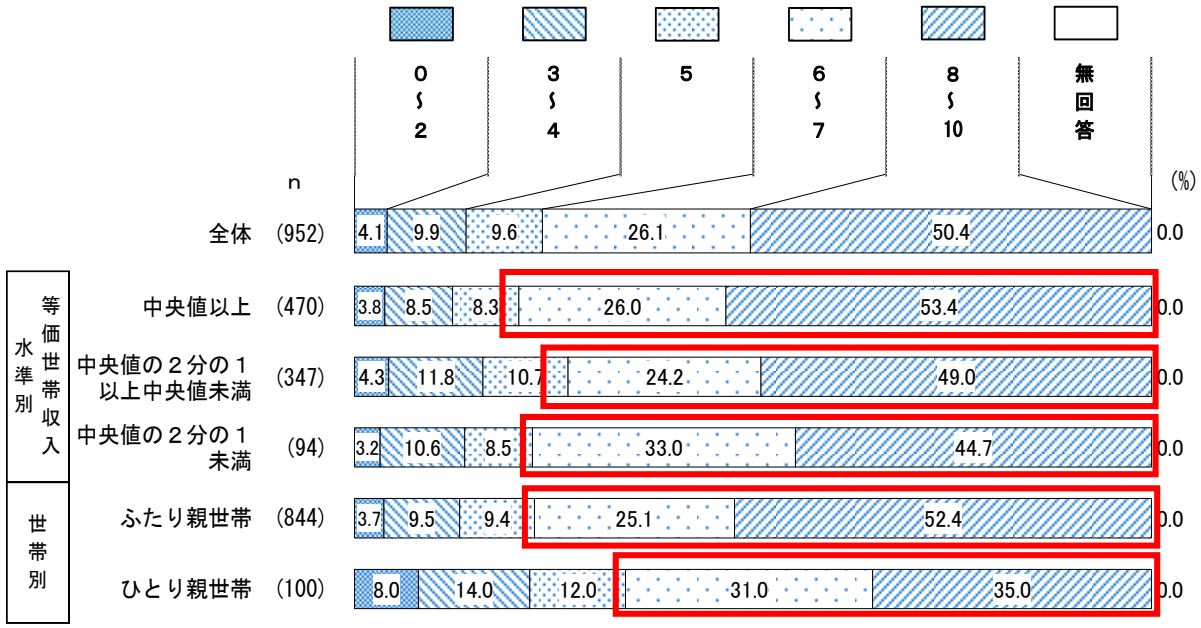
4　こどもの生活状況調査 （中学２年生、中学２年生保護者） 結果概要

■　生活満足度

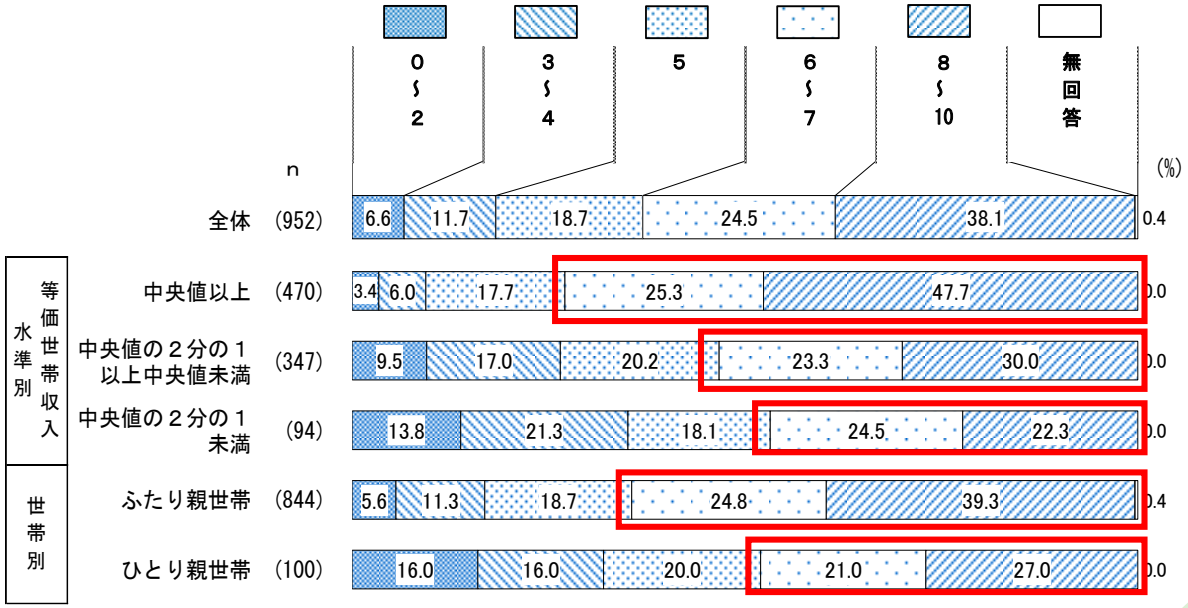
生活満足度(6~10)は、子ども本人で７割台半ば、保護者で６割超えと高い結果だが、収入水準が低い世帯やひとり親世帯では保護者の満足度が低く、世帯の収入や状況が影響している。なお、子ども本人の満足度は収入水準による差はあまりみられない。

Q：全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「０」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で答えてください。

■子ども本人



■保護者



4　こどもの生活状況調査 （中学２年生、中学２年生保護者） 結果概要

■　子どもの心理的状態

収入水準が低い世帯やひとり親世帯の子どもは、情緒的問題や仲間関係の問題性が高く、心理的な負担が大きい。

Q：以下のそれぞれの質問※について、「あてはまる」「まあ、あてはまる」「あてはまらない」のどれかから回答してください。

※「情緒（不安や抑うつなど）」の問題、「仲間関係」の問題、「向社会性」を得点として把握するための質問項目をそれぞれ５つ設定した。１問ずつ0～2点で採点し、合計して得点（0～10点）を算出。情緒、仲間関係の問題は得点が高いほど問題性が高く、向社会性は得点が高いほど社会性が高い。

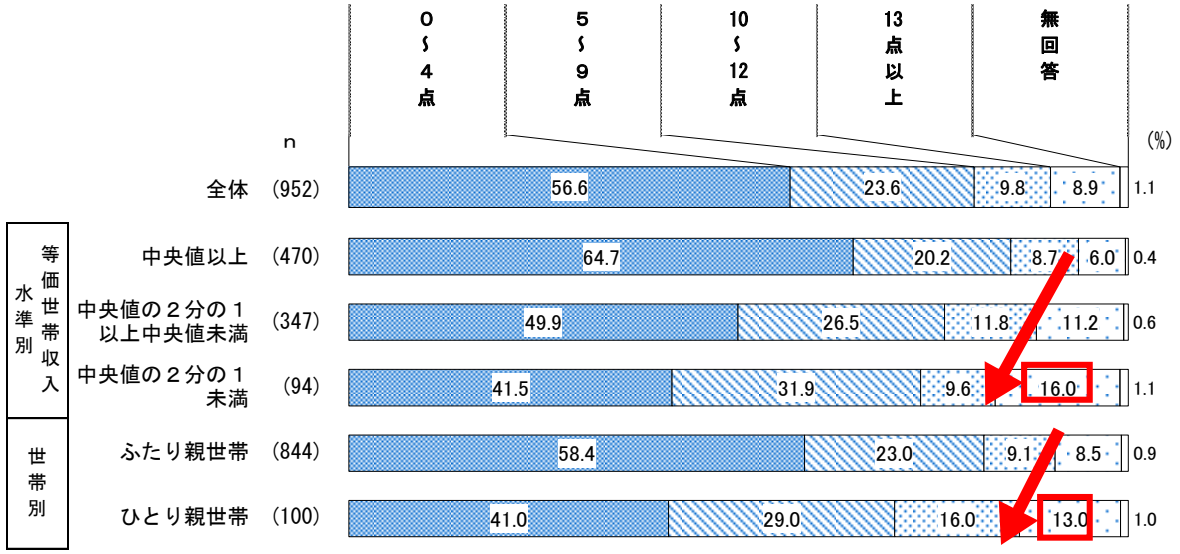
単位：点		調査数（n）	情緒の問題	仲間関係の問題	向社会性
全体		952	3.97	2.33	6.07
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	3.82	2.17	6.06
	中央値の２分の１以上中央値未満	347	4.06	2.36	6.08
	中央値の２分の１未満	94	4.22	2.73	6.16
世帯別	ふたり親	844	3.92	2.28	6.11
	ひとり親	100	4.31	2.63	5.75

■　保護者の心理的状態

保護者も同様に、収入水準が低い世帯やひとり親世帯では「うつ・不安障害相当」の割合（13点以上）が高くなっている。

Q：あなたは今までに、次のようなことがありましたか。あてはまる個数を答えてください。

※調査では「Ｋ６」と呼ばれる指標を把握するための６つの質問項目を設定した。ひとつの質問項目ごとに0～4点で採点し、合計して得点（０～24点）を算出。得点が高くなるほど抑うつ状態が強い。



5　事業者実態・意識調査結果概要

■　育児休業取得率

令和５年度の育児休業取得率は男性約５割、女性９割台半ばと、いずれも県調査より高い。

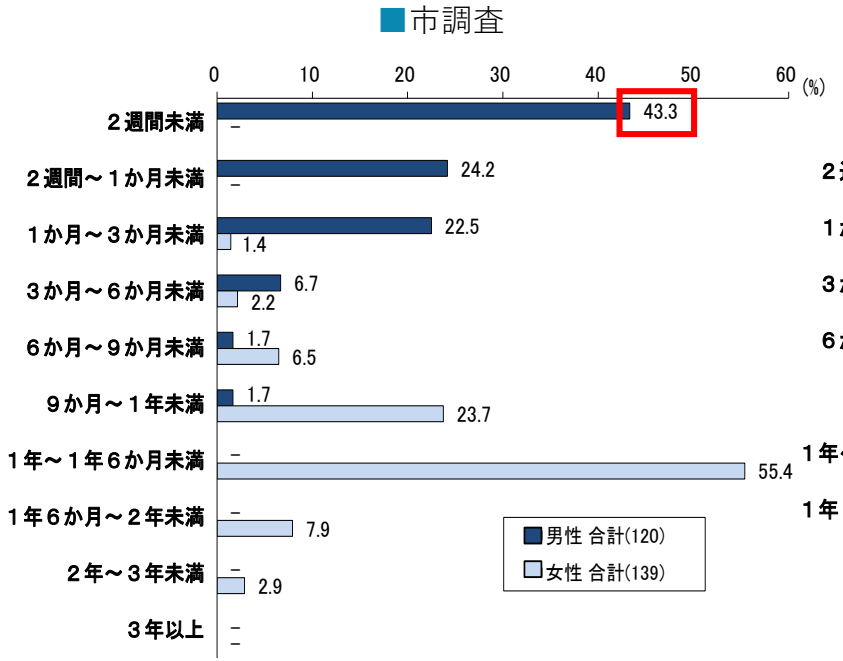
Q：貴事業所における、令和５年度中の出産や、令和５年度以降の育児休業等の取得状況についてお答えください。

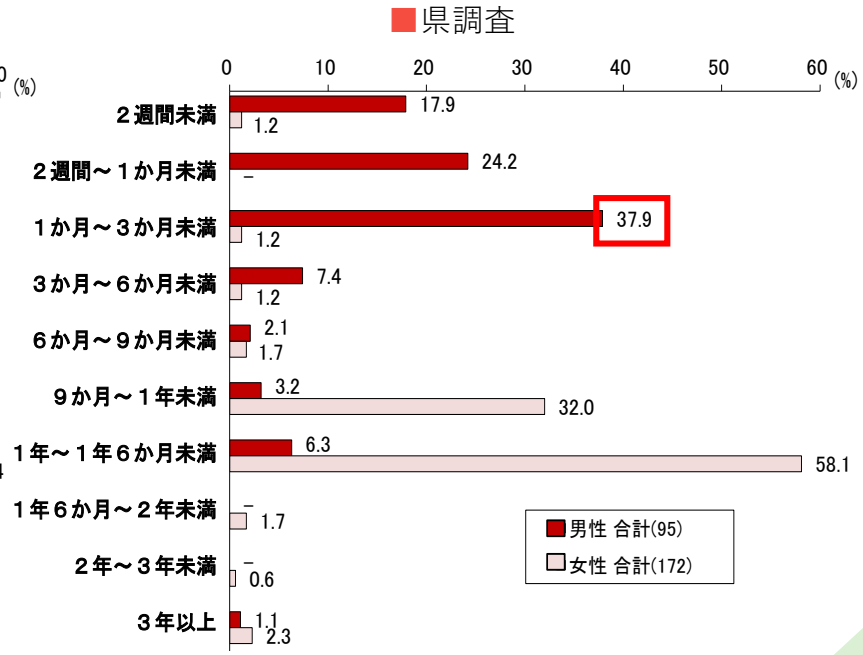
	項目	男性	女性
市調査	育児休業取得率	47.0%	96.7%
県調査	育児休業取得率	36.9%	91.9%

■　育児休業取得期間

育児休業の取得期間は、男性では「２週間未満」が最も多く、県調査で最多の「１か月～３か月未満」より短い。

＜復職者の育児休業取得期間＞





※県調査…令和５年度少子化対策に関する県民意識調査／仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

5　事業者実態・意識調査結果概要

■　仕事と家庭の両立支援

仕事と家庭の両立支援制度として最も多いのは「半日または時間単位の休暇制度」で、約５割の事業所が実施している。
その他に「パート・正社員間の身分の切り替え制度」や「退職した従業員の再雇用制度」も多く挙げられる。
一方、約３割の事業所は特に制度を設けていないと回答。

Q：貴社には、仕事と家庭の両立を支援するため、 次のような制度がありますか。

単位：％		調査数（n）	短時間の所用のための半日または時間単位の休暇制度	パート、正社員間の身分の切り替え制度	結婚・出産、育児、介護等を理由に退職した従業員の再雇用制度	在宅勤務制度	復職後の研修制度や休業中に情報を提供する制度	育児・介護休業法を上回る水準の育児休業制度または介護休業制度	育児・介護休業期間中の生活資金等の貸付制度	その他	特に制度は設けていない	無回答
全体		562	47.2	36.7	23.7	12.5	11.4	6.0	2.7	2.3	29.7	3.9
業種別	建設業	168	41.1	24.4	17.3	8.9	14.3	6.5	5.4	1.8	39.3	1.8
	製造業	67	41.8	26.9	25.4	10.4	7.5	1.5	1.5	0.0	40.3	3.0
	運輸業・郵便業	21	57.1	33.3	38.1	4.8	9.5	4.8	4.8	0.0	28.6	4.8
	卸売業・小売業	82	42.7	34.1	20.7	7.3	3.7	7.3	1.2	1.2	32.9	6.1
	金融業・保険業	10	90.0	30.0	20.0	30.0	20.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0
	宿泊業・飲食サービス業	6	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	医療・福祉	108	53.7	60.2	32.4	5.6	16.7	6.5	1.9	2.8	16.7	3.7
	サービス業（他に分類されないもの）	99	52.5	39.4	23.2	31.3	10.1	7.1	1.0	5.1	20.2	7.1
従業員数別	１０人未満	164	34.8	25.6	17.7	9.8	4.9	3.7	3.7	1.8	42.1	4.9
	１０～２９人	243	51.4	39.1	28.4	11.1	12.8	6.2	2.9	2.1	25.1	3.7
	３０～４９人	61	54.1	42.6	21.3	11.5	14.8	4.9	0.0	1.6	23.0	3.3
	５０人以上	93	53.8	46.2	23.7	21.5	17.2	10.8	2.2	4.3	23.7	3.2

※母数が30未満の項目は参考値とする。

6　自由意見

■　小学生、中学生、高校生

Q：前橋市は、こどもの権利が守られて、すべてのこどもたちが安心して、健やかに成長できる社会の実現を目指しています。すべてのこどもたちが安心して、健やかに成長できる市を実現するために、前橋市に必要なことについて、あなたの意見を聞かせてください。（自由記載）

▼こどもの権利（意見尊重など）に関すること

・子供の話をもっとよく聞いてほしい。（小学生）
・大人たちの判断で色々決めるのではなく、しっかりと子どもたちの意見を聞いて、それを取り入れるようにしてほしい。（中学生）
・自分の気持ちや意見を素直に積極的に言えるような環境を作る。（高校生）

▼悩みや相談に関すること

・いじめられている人や何か悩んでいる人が、このタブレットで簡単にお悩み相談をできるアプリを入れたらいいと思います。（小学生）
・もっと子供一人一人が悩みや疑問を大人に相談出来る場所や環境作りをした方が良いと思う。大人も子供の事について理解を深める場が必要だと思う。(中学生)
・誰もが気軽に話しに行ける相談所を設置 。カウンセラーとかに話に行きたいと思ったことがあったけど、行くことに抵抗があったり、それを見た他の生徒とかにどう思われるかが心配でいけないことがあった。（高校生）

▼街の活性化、安全確保などに関すること

・自転車に乗れたりボール遊びなどスポーツがもっとできる公園が欲しい！今の公園はネットがないからボール遊びをするとボールが飛んでいってしまうから！小さい子の遊具はあるけど大きくなると楽しくない。（小学生）
・冬の夜は、暗くて自転車通学が少し危ないと感じるので街灯を増やして欲しいです。（中学生）
・県庁所在地なのに私たち高校生のような若者が楽しめる施設が少ないと思います！友達と遊ぶときはいつも高崎なので、前橋も素敵な商店街や伝統ある駅周辺を若者向けの商業施設や飲食店で盛り上げてくれたら嬉しいです！！（高校生）

6　自由意見

■　独身者、既婚者、子育て中の保護者

Q：子育て支援や少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたらご自由にお書きください。（自由記載）
（結婚支援、妊娠・出産支援、子育てに係る精神的支援、経済的支援以外の取組等）

▼労働環境・就業支援について

・ここ数年で育児休暇を取得する男性が増えてきた印象がある一方で、1年以上の育児休暇を取得する方、復職時に時短勤務を選択する方は非常に少なく感じる。収入減の不安やキャリアの選択肢が狭まる懸念が育休取得の妨げにならないよう制度の充実を望む。（既婚者）
・休暇に入ることによる周囲への負担を心配して休暇の取得を躊躇される方も多いと感じる。お休みされる方の心理的負担も軽減するよう、産休・育休に入る方の仕事のカバーをする従業員へのインセンティブが充実する制度、助成する制度があるとうれしい。（既婚者）
・30代半ばで初めての出産となると、順調だった仕事が今までと同じようにはできないことをとても強く実感する。仕事が好きな人は、キャリアと出産を天秤にかけてキャリアをとる人も多いと思うし、2人目を考える人は少ないように思う。（子育て中の保護者）
・個人事業主は育休などの補助がないため、産後できるだけ早く仕事復帰しないと収入ゼロなので生活していけない。仕事復帰しやすい環境や、育休など補助がない個人事業主も不安を拭えるような給付や手当があれば、気持ちに余裕もうまれて子供を産んでも大丈夫だと思える。（子育て中の保護者）

▼男女平等意識について

・小さい頃からの性教育や男女の公平さについて教育するなどが重要だと思う。（独身者）
・多くの女性が共働きをしているのに家事育児はかなりの割合を女性が担っている。男性が育休をとっても、家事スキルが無かったり、そもそもやる気が無かったり、何の助けにもならないどころか逆に家にいる事で女性の負担が増える事もあるので、家事育児は男女でという男性の学校時代からの意識付けやスキルを身に付けさせる事も必要だと思う。（子育て中の保護者）

6　自由意見

▼ワーク･ライフ･バランスについて

・子育てと仕事を両立したいと思っても子どもの体調不良でままならず、仕事に専念できない現実がある。出産前のようにやりがいを持って仕事に取り組みたいのに歯がゆい。さらに保育料も高額で、現状の制度では年収が増えれば負担も増え、身も心もすり減らして働くことになり疑問を感じてしまう。（子育て中の保護者）
・片親での仕事しながらの育児が難しい。実質ひとりでは家事育児しながら充分な給料を受け取ることが出来るだけの仕事をこなす事は無理だと思う。（子育て中の保護者）

▼社会制度について

・現状どのような支援が受けられるか分からないので、チラシやWebで分かりやすく伝えて欲しい。（独身者）
・非課税世帯への金銭のばら撒きなど、一定の人しか恩恵が得られないような制度ではなく、子育て中の全世帯が安心して育児ができるような制度と環境整備を進めてほしい。前橋市も明石市や流山市のような子育て支援制度を拡充させてほしい。（子育て中の保護者）

▼地域力・治安について

・もし子供を授かったらベビーカー移動や子供と手を繋いで歩くことが容易な、歩行者に優しい街になれば良いなと考えている。中高生の自転車事故率が高いことについても、不安がある。（既婚者）

▼その他

・SNSやメディアで結婚や妊娠･出産、子育て等に対するネガティブで、男女間で分断を煽るような話題を多く目にする事が増えた気がする。結婚、少子化対策等にポジティブな話題を浸透して欲しい。（独身者）
・子育てを孤立した状態で行ってしまうと、虐待・ネグレクトをうむ要因になると感じる。子どもに対する支援はもちろんですが、それ以上に保護者に対する支援を充実させ、繋がりを持ちながら子育てをし、心に余裕を持ちながら育てられれば、2人目、3人目と考えられると思う。孤育てから、子育てへ、そして地域で育てる共育てにする必要があるのではないか？（子育て中の保護者）

6　自由意見

■　中学２年生

Q：あなたは、誰かに話しを聞いてほしいことや助けてほしいことはありますか。（自由記載）

・少し友達とうまくいっていない気がするとき、どうしたらいいかわからない。
・高校受験が心配です。プレッシャーがきつい。
・部活動の大会で良い記録を出すための方法を先生以外で聞いてみたい。
・自分の考えが理解されない時がある。相談しようとしても嫌われそうで怖い。
・好きなことをする時間がまとまって取れず、趣味が減っていっている。そのため話についていけないこともしばしばあり、もう少し時間が欲しい。

■　中学２年生保護者

Q：あなたは、以下の制度※以外に、どのような支援があるとよいと思いますか。（自由記載）

※就学援助制度、生活保護制度、生活困窮者の自立支援相談窓口制度、児童扶養手当制度、母子家庭等就業・自立支援センター制度、子ども食堂制度、子どもに勉強を無料で教えてくれる場所制度、フードバンク、フードパントリー制度

・中高生の制服・体操着のリユースがあるように自転車のリユースもあるといいなと思う。中学生の重いシルバーの自転車は高校生になると乗らなくなり、高額の軽い自転車を買うようになるので3年間しか乗らない綺麗な中学生自転車をリユースできればお互い助かる。
・タブレットのアプリに「朝ごはん食べた？」など質問に答える形式で、家のこと・学校のことなど気軽に相談できるようにしてほしい。
・子供の塾などに送り迎えしてくれる、キッズタクシーの補助など。
・習い事支援。例えばタブレットの動画配信でも良いと思う。
・様々な理由で学校に行くのが難しい子が、出席扱いになるような、学校以外の居場所。
・子供に無料でスポーツを教えてくれる制度。習いごとではなくみんなで楽しくできるようなスポーツ。
・子供の将来について相談できる窓口。どういう職業があるか、それを目指すにはお金がどのくらいかかるか、そこに就職したら今後どのように生活できるかなど現実的にアドバイスをくれるところ。学校の先生だと時間がなくて相談できなかったり、あまり現実的な話しができないため。そこから、奨学金や色々な相談にも繋げて欲しい。
・自分がどんな支援を受けることができるのか、チェックできるアプリが欲しい。知らない制度があった。

6　自由意見

■　事業者

Q：ワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進、少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたら自由にお書きください。（自由記載）

▼行政による事業所への支援・情報提供

・企業に求めるだけでなく支援対策をしたくてもそこまで経営の基準が達してない中小企業は沢山あるので法律をかざされても対処できない。行政も企業に補助金等対策をして欲しい。
・育児休業に入る女性のお話を伺うと、復帰後に自身の居場所がないのではないか等、不安に思うことが多くある。キャリアアップか、結婚して育児かという選択だけではなく仕事と家庭の両立という選択肢が増えるためには会社としてどのように努力していくべきか、他の企業の取り組みや、アドバイスなどいただける機会があれば良いと思っている。
・職員の育休を含む子供のための休暇取得の際に、代わりの業務を行う職員に対しての手当支給に対して助成金を出してほしい。

▼男女平等や相互理解の啓発

・制度が整っても、社会全体の理解が進まないと、これらの政策は進まない。女性にばかり家事や育児が偏っている状況が変わらなければ進まない。男性の長時間勤務は育児や家事をしない理由にはならない。女性も働きながら育児、家事をしている。配偶者控除や年金の負担も専業主婦が得をしているのはおかしい。すべての人が税金、健康保険料を納めるべき。

▼家庭への経済的支援

・多子世帯への経済的支援（出産祝金や児童手当の更なる増額）を増やすことが少子化対策となると思う。子供は産めるが、教育資金の確保ができないため、出産をあきらめる世帯が多いと思う。